

令和2年度地方創生ストリートミーティング（移住定住者編）
意見と回答・対応方針

No	区分	ご意見・ご要望	各課回答・対応方針	担当課
1	移住者が不安に思うこと	移住してきて、縁もゆかりもない土地だったので、まずはコミュニティを探そうと思った。その際、全年齢対象のものをご案内いただいたが、似たような年代の人達と出会えるものを最初にご案内いただけるとうれしかったと思う。	移住後の不安を少しでも取り除けるよう、移住定住者がいつでも気軽に集い、交流し、過ごすことのできる場として「移住・交流情報ガーデン」や、移住者同士の交流活動を展開する「ふるさと鳥取U1会」、毎月開催される移住者交流会などのご紹介を行っています。今後は、移住相談の聞き取り段階において、移住後の仲間づくり等のニーズもお聞きしながら必要に応じて情報収集・提供を行うことでさらに寄り添った対応を心掛けるとともに、移住者交流会の内容等も検討します。	地域振興課
2	移住者が不安に思うこと	初めてのところに飛び込むのはすごく怖いし、誰も知らないところに行くのは勇気のいることだと思う。移住する前に何回か来て顔見知りを作っておくというのが大事と感じた。		
3	移住者が不安に思うこと	同じ価値観が共有できる方達と出会う機会にたどり着くには、SNSやウェブサイトなどで、イベント等の情報がオープンにされていて、アクセスしやすいことが大事だと思う。また、鳥取の中では仲間づくりがキーになると思う。移住を繰り返す人もいるので、定着するには、まず仲間をまず作ってもらうことが必要ではないかと思う。		
4	移住者を増やすには	自分は進学で鳥取から都会に出た。都会では刺激もあって楽しくて、仕事にも困らなかった。一方で、結婚してこどもができた際に「保育園に入れませぬ」と言われて困った。それがきっかけで、Uターンを考えたところ、仕事の支援や家の提案もしてくれた。結婚して家族ができたときに、鳥取に住んだらスムーズに暮らせるよということがPRできれば、家族で移住をする人が増えるのではないかと感じた。	本市は、2020年版住みたい田舎ベストランキング「子育て世代が住みたい田舎」部門で第1位を受賞したところですが、子育ても含めて、とても暮らしやすいまちであり、特に未来を担う若者や子育て世代の方々に強くアピールするため、補助金制度の運用や情報発信に努めてきました。今は、インターネットを通じて様々な情報が入手できる便利な時代にあり、現地に赴かなくても鳥取暮らしの良さを直感的に感じいただけるようなWebやSNSでの発信を推進していきます。	地域振興課
5	移住者を増やすには	移住をするときに職をどうするのかというのは大きな課題だと思う。やりがいのある仕事があるんだということを正確に伝えることが、飛び込んでくるきっかけになるのではないかと思う。	都市部と比較すると、企業数や求人数が少なく、また賃金単価にも差が生じますが、農林水産業も含めて、ここでしかできない鳥取市ならではの仕事があると考えています。鳥取県では、その視点も取り入れながら、就活総合サイト内における情報誌「TURN」等での特徴ある発信に取り組んでおられます。引き続き、本市の雇用関係部門や移住者の仕事をサポートする関係機関と十分連携を図りながら、魅力ある情報の収集と発信に努めます。	地域振興課
6	移住者を増やすには	車を2時間も走らせれば大阪、神戸、もう少し走れば京都にも行けてしまう。ちょっとお金に余裕があれば、1時間で東京にも行けてしまう。すごく便利な位置に鳥取市はあると思う。これからワーケーションに使ってもらえるポテンシャルがあると思うし、移住定住にも結びつくのではないか。都会の刺激を忘れずに、普段の生活はゆるやかな時の流れや空気の中で暮らしていけるところが鳥取の好きなところ。	特に市内の中でも緩やかな時の流れや自然の豊かさを実感できる「中山間地域」で関係人口やワーケーションなどの事業に取り組むことによって、さらに本市の魅力をお伝えできるものと考えています。今後は、市内全域への高速通信網整備により中山間エリアにおける通信環境の改善が図られる予定であり、また、迎え入れる施設として「空き家」を活用することなどの研究も並行して行うこととしています。	地域振興課
			鳥取市は、意外に便利な交通アクセスがあること、大規模災害のリスクが少ないこと、生活コストを抑えて暮らしやすい環境であることから、ワーケーションの適地であると認識しており、今年度から市内3拠点を中心としたワーケーションの誘致活動を開始しています。この誘致活動を通して、関係人口の創出・拡大を図り、最終的にはオフィス進出から定住人口の増加まで繋げていきたいと考えています。	企業立地・支援課
7	移住者を増やすには	東京の方では、新型コロナウイルスの影響で大企業がオフィスを縮小している。若い世代はテレワークができるので近隣の山梨県や茨城県に移っている。鳥取からは東京まで飛行機で1時間弱でいけるので、移住者を十分呼び寄せることできると思う。一方、鳥取の全体的なイメージは砂丘で終わってしまうという状態のため、鳥取の強みというものがあれば、十分若い人の県内流入につながると思う。	近年では、飛行機の東京往復1日5便化や鉄道の高速度化、さらには高速道路の開通で関西圏・山陽との移動時間が短縮されるとともに市内でも市街地と中山間地域の移動時間が縮まるなど、交通環境の向上により人と人の交流や企業進出等がさらに活性化されています。これに自然・食・温泉・レジャー・子育て環境などの本市の強みを組み合わせることで、移住のみならず、地方圏の地域づくりの担い手となることが期待される地域外の方々（関係人口）の増加にも繋がるものと考えています。	地域振興課
8	移住した感想	縁もゆかりもない鳥取で、馴染めるか不安だったが、実際触れてみると、人がすごく暖かくて優しい。最初のイメージはもうちょっと閉鎖的なイメージがあったが、いい意味で裏切ってくれた。まだ数か月だが、移住して良かった。こういった暖かなまちを世の中に知っていただきたいので、東京の知り合いやメディア関係の人、YouTubeの人等と意見交換をして、どういう風に鳥取を紹介していけばいいか、個人的な動きもしている。	風土や人の温かみなどを含めて鳥取暮らしの良さを直感的に感じていただけるよう、メディアやSNS等での情報発信は欠かせませんが、やはり実際に来て、見て、触れて、話して、泊まることでその良さを実感いただけるものと考えています。引き続き「発信」と移住検討者を対象とした地域案内・体験ガイド・ワーホリツアーなどの「体験」を通じて、しっかりPRに努めます。	地域振興課

令和2年度地方創生ストリートミーティング（移住定住者編）
意見と回答・対応方針

No	区分	ご意見・ご要望	各課回答・対応方針	担当課
9	移住した感想	小学校の運動場が芝生ということはなかなかあるものではない。また、わらべ館や万葉歴史館等のイベントに子どもが参加するが、体験内容が本格的で驚いている。都会であれば、随分前に予約が必要で有料なものが、行けばすぐにでき、無料である。本当に子育てに恵まれた環境である。	本市は、子育て環境が充実していることが評価され、2020年版「住みたい田舎」ベストランキングの「子育て世代が住みたい田舎」部門で第1位を受賞しました。今後も、未来を担う若者や子育て世代の方々に1人でも多く移住いただけるよう、引き続き、庁内で連携を図りながら情報の収集・発信に努めます。	地域振興課
10	鳥取の交通事情	あまり渋滞がないので、距離と車の速さで到着時間が割り出せて、その通りに到着するという事は、都会ではないことである。	鳥取県は、通勤時間が短く「ストレスオフ県」として全国第1位を獲得しています。最近では、高速道路が整備されたことで中山間と市街地の移動時間が短縮され、また、冬季は積雪もありますが、過去の豪雪を教訓に国・県・市道のいずれも除雪体制が整っており、移動時間に対するストレスは、都市部と比較すると少ないものと考えています。移住相談会等においては、移動時間を含めた「ストレスオフ」の点もしっかりPRしています。	地域振興課
11	鳥取の交通事情	グーグルマップで検索した時間通りに目的地に着ける。道も広々としていて、渋滞もなく安全に行ける。マイカー社会として治安が保たれていることもPRポイントになるのではないかと。		
12	中高生について	高校生にまちなかに何が欲しいと聞くと、遊び場が欲しいという。普段は、カラオケに行く、プリクラを撮る、カフェで食べるくらいしかできない。自転車で行けるのはそれくらいで、高校の立地によっては、それすら行けないところもある。高校生達は総合アミューズメント施設が欲しいという。身体を動かしたい、ハイテク系の何かで遊びたいという欲求がたくさんあるようだ。	本市では、「鳥取市中心市街地活性化基本計画」（H30.4.1～R5.3.31）に基づき、魅力と賑わいのある中心市街地の再生に取り組んでいるところ。平成29年2月に満15歳以上の市民4,000人を対象として実施した鳥取市中心市街地活性化に関する調査では、娯楽、商業、観光、文化・芸術施設等のニーズが高く、中心市街地の都市機能の充実と賑わい創出のため、ニーズに合った民間投資を促すための各種事業を進めていくことにしています。 また、本市では、空き店舗等を再生し、活用することでまちの魅力を高める「リノベーションまちづくり」の推進や、風致広場、ケヤキ広場など公共空間を活用し、鳥取駅周辺に恒常的な賑わいを創出する取り組みの検討を行っており、現在策定作業を進めている第2期鳥取駅周辺再生基本構想の中でも、子育て世代や学生等が日常的に利用することのできるコミュニティスペースの整備など既存ストック（これまで整備されてきた道路、公園などの都市基盤施設や、住宅、商業・業務施設等）を上手に活用しながら、若年層も含めた市民の皆様のニーズに合った取り組みを進めていきたいと考えます。	中心市街地整備課
13	中高生について	遊ぶ場を求めて県外に出るといえる点で言えば、男の子はゲームとかYouTube等で代用が効く。一方、女の子は特に買い物問題となる。この界隈でも楽しそうにしているが、みんなと同じような感じになってしまうので、神戸や大阪に行く。結局、そこでの比較になってしまう。新しい刺激を受けられる場所ということをもっと少し考えていかないと、それだけで若者が県外に流出しがちになってしまう。		
14	中高生について	10代の子どもたちにとって鳥取のまちなかというのは、タピオカミルクを待って並び時間、カフェにいる時間くらいしかないんじゃないかと思うと、すごく体験のバリエーションが少なく寂しい。		
15	中高生について	高校生は新しいものができることを期待しなくなってしまうところがあり、せめてコンセント、Wi-Fi、シャベっていい場所の3セットが欲しいと言っている。それは、スマホである程度のことができるからであるが、その時間を他の楽しいこととか、他の人と繋がったりするような、リアルな経験に結び付けられたらと思う。小さい子どもに向けたものは、かなり条件がいいと思うが、中高生については見落とされがちなのではないかと思う。		
16	中高生について	鳥取から大学で県外に出て、いざ成人式の時に帰って集まってみたら、ファッションだったりメイクだったり、都会に出ている人は田舎にいる人よりきれいだなという感じになっていた。やはり女の子にとっては刺激が物足りないのかなと思う。		
17	大学生について	大学生にとって鳥取の中心市街地はアルバイトをする以外に目的がない。不動産会社から見ても、中心市街地は家賃が高いし、やることはないし、学校から遠いし、交通の便は悪いし、大学生が家を定める理由がないといわれたが、もったいないと思う。もう少し、まちなかを充実させて、体験ができるようなスペースが一つあれば全然違ってくるのではないかと。		
18	教育	移住希望者には、鳥取に来たときに農業をしたいという方も意外と多く、鳥取イコール農業みたいなイメージを持っている方も多い。福部未来学園では、らっきょうの植付から販売まで体験させているが、自分たちが作ったものをPRするところまでやるということはすごく大事。小学校で農業体験をしないのはすごく勿体ないと思う。高年齢層の方達、農業をしている方と交流させることによって、その土地に昔から住んでいる方の話を聞かせてもらえたり、農業が面白ければ、次の代にもつながっていくと思う。	本市では、教科や総合的な学習の時間等で農業の学習や地域学習として農業体験を実施する学校もあります。田植えや収穫、野菜や果物の農作業体験を行っている学校もあり、地域の方にも協力をいただきながら、このような体験活動も引き続き実施していきたいと考えております。	学校教育課

令和2年度地方創生ストリートミーティング（移住定住者編）
意見と回答・対応方針

No	区分	ご意見・ご要望	各課回答・対応方針	担当課
19	教育	<p>こどもに地元により思い出を残すことが大事なのかなと思う。原体験を作っておくということという地域の祭り。聖神社の祭りやしんしゃん祭り、貝殻節祭りに、みんなで参加したという、一つの原体験を作ることも大切なことと思う。</p>	<p>本市においても、ふるさとを愛し誇りを持てる子どもたちを育てていきたいと考えています。地域ごとに様々な祭りなどの行事があり、子どもたちも参加していると聞いております。このような体験は地域の方々のご尽力によるものが大きく、今後子どもたちにもこのような体験を多くさせていただきたいと考えます。</p>	学校教育課
20	教育	<p>こどもには誇りが必要だと思う。こどもたちを見てると自信がない。授業の中で、自分にどれくらい自信があるか最大が100で生徒に手を挙げさせたところ、50以下がほとんど全員。30から10で挙げ始める。また、どうしたらこのまちが面白くなるか、いい所はどこかと尋ねると、「無いです」と答える。地域の祭等を通じて、誇りを持てる機会や大人から誇りを引継ぐ機会を積極的に作らないと行けない。</p>	<p>子どもたちは学校だけでなく、地域社会の中でも様々な体験や多くの人との関りの中で育っていきます。そのような人との関りの中で自己有用感が育まれ、自分に自信をもって様々なことに意欲的に取り組んでいくと思います。そのような関りは、大きな祭りや行事だけでなく、日常の関りの中からも育まれるものであり、学校も地域と連携しながら、子どもたちを育てていきたいと考えています。</p>	
21	若者が地元に戻ってくるために	<p>若者の場合は、ここではないどこかに行きたいという心理が絶対あると思う。これは否定できない。ただ、いい思い出があったり、地域への誇りがあれば、いつか懐かしくなる。新卒で地元就職するのもいいが、どこか行って力を付けて帰ってきてもらったほうが良いと思ったりもする。できるだけ若いときに帰ってきてほしいので、「そろそろ鳥取懐かしくない？」という問いかけができるような仕組みがあるといい。</p>	<p>本市では、Uターン支援登録制度を運用し、出身者であれば制度登録後に市内の旬な情報を定期的にお届けしています。今後は、本市や麒麟のまち圏域出身者にU・Jターンしていただくための「気づき」や「郷愁」のきっかけづくりとして、WebやSNSを活用した取り組みを研究します。</p>	地域振興課
22	起業・創業の支援	<p>鳥取は趣味や副業、あるいは個人事業主レベルで何かやっている方が多い。そういった方達に光を当てる機会があればいいと思う。東京に比べると、一人が動いたものが市町村を動かすくらいの力になるので、そういった人達が表に出る舞台をどう作ってあげるかが大切だと思う。</p>	<p>商工団体、各金融機関等が創業等に関する相談、支援に取り組んでいますが、本市では鳥取県との協調による制度融資にて、創業等を下支えしています。</p> <p>また、特にまちの魅力向上に大きく貢献する創業等に関しては、金融機関と組成したファンドによる投資や低金利融資を行い、市として全面的に後押ししています。</p> <p>引き続き、まちの魅力向上に資する創業支援を図ります。</p>	企業立地・支援課